



次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年7月28日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料2」

子供のより主体的な社会参画に関わる教育の充実

－課題－

<教育内容面の課題>

- 中学校において校則の見直しなどの取組が進む一方、子供の関わりが十分ではない例が見られるほか、小学校においても、学校運営上の様々な場面において、子供の主体的な参画の余地が大きい。
- GIGAスクールで整備されたクラウド環境を活かして、意見を可視化したり、少数意見を吟味したりして、よりよい合意を実現する取組が進みつつあるが、道半ば。
- 我が国の学校教育の長所であるはずの協調性の涵養が、ともすれば集団性の強調に陥り、子供にとって意義が不明確な校則や学級ルールなどの存在とも相まって、「同調圧力」への偏りを生んでいる側面も指摘されている。また、意見表明の機会の確保や対話や協働を通じた参画の機会は、多様性を包摂する教育の実現にとっても重要であるが、十分に整備されているとは言えない。



<学校・社会の受け皿などの課題>

- 子供の意見を授業や教育課程に活かす仕組みや、その際の指導技術などが未成熟
 - 子供を社会の一員として受け止め、その意見を政策や社会の仕組みづくりに活かす地域・社会の受け皿が不足
- ↓
- 子供たちにとって身近な社会である学級・学校をフィールドにして、意見表明の機会、合意形成の機会、参画の機会をより充実させる余地がある。学習指導要領において関連する教育内容を盛り込むとともに、教員研修を含め、必要な条件整備を図ることが必要

単なる物知りにならない

なんじ くんし じゅ な しょうじん じゅ な な
女、君子の儒と為れ。小人の儒と為ること無かれ。

(訳) 君は人格の立派な君子の学者になりなさい。ただの物知りである、しょうじん小人の学者にはならないように。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）